

No.EA21-08-006-01

2016年5月30日

エコアクション21 環境活動レポート

期間2015年5月～2016年4月



株式会社ミナト精機製作所

目次

I	環境方針	P-3
II	事業活動の規模	P-4
III	E A 2 1 推進体制	P-4
IV	環境目標と実績	P-5
V	環境活動の取り組み計画と評価	P-6
VI	環境関連法規制の遵守状況	P-7
VII	代表者による全体評価と見直しの結果	P-7

株式会社ミナト精機製作所 環境方針

<基本理念>

株式会社ミナト精機製作所は、自動車部品及びその他の精密機械部品の生産活動において、「地域社会との共存共栄」を図るため、環境にやさしい企業をめざし、全従業員で活動を促進いたします。

<活動指針>

- 1 法令遵守により「環境汚染の予防と改善活動」を実行し、地域環境保全に努めます。
- 2 CO2排出の削減をめざし、省エネ・省資源活動を行うと共に水等の資源を大切に使います。
- 3 工程不良品の削減、産業廃棄物削減を図ると共に、リサイクル化の推進を行います。
- 4 環境教育を実施し、従業員の環境意識高揚に努めます。
- 5 活動内容と結果を「環境活動レポート」として社外に公表します。

制定日：2008年7月1日

代表取締役社長 新井崇広



本社工場

II 事業活動

1) 事業者および代表者

事業者名 株式会社ミナト精機製作所
代表者名 代表取締役社長 新井崇広

2) 所在地および連絡先

所在地 群馬県高崎市倉淵町三ノ倉町1019 電話 027-378-2097
環境窓口（推進室） 事務 経理課 塚原美嘉 野口奈緒子 FAX 027-378-3879

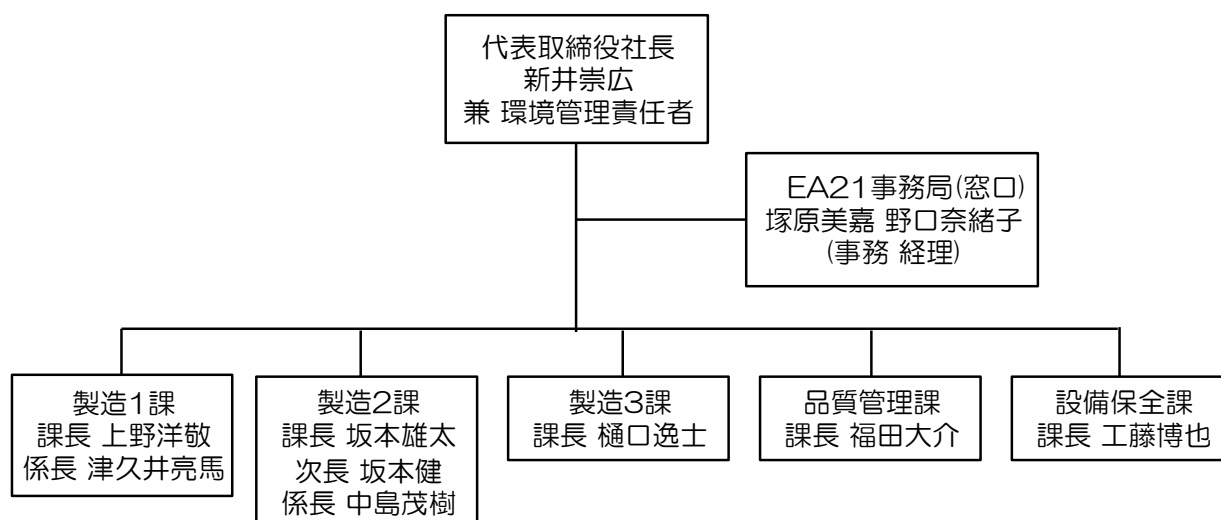
3) 業務内容および業務規模

自動車部品及び、その他の精密機械部品の機械加工

敷地面積 2,740㎡
従業員数 30名(2016年4月現在)

4) 対象範囲 本社工場:自動車部品及び、その他の精密機械部品の機械加工

III EA21推進体制



推進業務分掌

業務	分掌(役割、責任者)
代表者 環境管理責任者	代表取締役社長 新井崇広 ①環境方針を制定する。 ②EMS活動に必要な経営資源を準備する。 ③EMS活動の構築・運用に必要な情報を収集し、環境目標、EMS活動 全体の見直し是正処置を行う。 ④環境管理責任者として、環境委員会を統括する。 ⑤EMS活動の実績把握のための情報を提供する。
事務局（窓口）	事務 経理 塚原美嘉 野口奈緒子 ①事務局として、環境管理責任者を補佐しEMS活動に関する窓口、及び実務全般を所管する。
環境委員会	①環境管理責任者は、各課長を6ヶ月に1回程度招集し環境委員会を開催する。 ②主な協議事項：環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理。

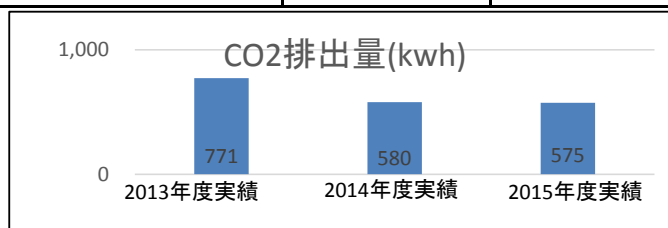
Ⅳ 環境目標とその実績&次年度の目標

2015年度（年間）の活動実績を下記の通り報告いたします。

<1>基準年度と目標計画に対する実績比較(原単位:売上高)

実績評価：○目標達成、×目標未達成

項目	単位	過去3年間の年間実績			2015年度実績		基準値増減(%)	実績評価	2016年目標	2017年目標	
		2012年度実績	2013年度実績	2014年度実績	基準値 (過去2年間 平均値)	目標 基準値 2%減			・エネルギー・ 資源=基準値3% 減	・エネルギー・ 資源=基準 値4%減	
二酸化炭素排出量 エネルギー・資源	購入電力	kwh	1,105	1,360	1,003	1,181	1001	-15.2	○	基準値比2%減	基準値比3%減
	軽油	ℓ	13.9	12.2	13.2	12.7	12.8	0.8	×	基準値比2%減	基準値比3%減
	灯油	ℓ	11.0	10	7.8	8.90	7.8	-12.8	○	基準値比2%減	基準値比3%減
CO2排出量		Kg-CO ₂	645	771	580	676	575	-14.9	○	基準値比2%減	基準値比3%減
産業廃棄物	一般廃棄物(焼却灰)	t	0.004	0.002	0.004	0.003	0.003	3.7	×	2015年度実績維持	2015年度実績維持
	金属類くず	t	0.66	0.69	0.88	0.79	0.87	10.2	×	2015年度実績維持	2015年度実績維持
	廃油	t	0.028	0.027	0.03	0.029	0.03	10.9	×	2015年度実績維持	2015年度実績維持
水資源	水	m ³	0.92	1.00	1.20	1.10	1.02	-7.2	○	2015年度実績維持	2015年度実績維持
項目	2014年度活動実績			2015年度活動計画	2015年度活動実績	評価	2016年目標	2017年目標			
グリーン購入	総務にて購入記録管理を実施し、エコ商品の購入に努めた結果、購入率が向上された			←2014年度実績維持	事務用品を中心に前年度と同様の購入を継続できました。	○	・2015年度実績維持。	←			
製品及びサービス	1)工程不良の改善を計画書を作成し、進捗管理を実施 2)幹部や運転手へのエコ学習会を実施 2)顧客チーム、受入不良は未達。工程不良は減少傾向。			1)輸送トラック、フォークリフトの点検、整備。EJドライブ教育の実施 2)工程不良の削減	実施達成 削減傾向にあり	○	・2015年度実績継続 ・2015年度実績維持。 ・別紙品質	←			
化学物質使用料の抑制管理	1)MSDS管理、法規制内容を確認し使用。 2)油脂類廃油処理記録の管理			←2014年度実績維持	MSDS管理継続中。 Ecoリスト管理の実施。	○	・2015年度実績維持。	←			



<2>2015年度評価(原単位) 2014年度~2016年度(中期計画)の購入電力(東京電力)CO2排出係数は0.525(H25.12.19)公表で固定。

1.二酸化炭素排出量の削減

購入電力、灯油の消費量が大幅に削減できたため、CO2排出量を-14.9%と大幅に削減することができました。企業努力として、節電に関してはITツールの効率化、環境に対する意識があったと思われます。

2.産業廃棄物排出量の削減

一般廃棄物、金属くず、廃油共、目標未達となりました。

- ①一般廃棄物は製造業務繁忙等で製造備品(軍手、ウエス等)の消耗が増加しました。
- ②廃油の排出量増は、新設備導入に伴う設備メンテ及び切削液交換の頻度が多かった事が影響していると思います。これも一般廃棄物同様、生産量増加が影響していると思われます。

3.水資源投入量の削減

水道水使用量は社内意識強化を努め、目標を大きく上回り達成できました。

4.グリーン購入

事務用品を中心に前年度と同様エコ商品を優先に購入は継続しています。今後もエコ商品への意識を高め、環境に配慮し、節約にもつながる企業努力を心がけていきます。

5.製品及びサービス

受注生産のため、納入品質はチーム“O”に努めましたが目標未達でした。又、工程不良品削減は減少傾向となり工程不良損金は減少しました。また、軽油消費量抑制のためフォークリフト、輸送トラックの運転者を対象に「エコドライブ教育」を実施し燃費向上を図りました。今後も定期的に関係従業員へのCo2排出抑制(環境保全意識)に努めます。

6.化学物質使用料の抑制管理

当社は化学物質は使用していませんが、新規に油脂類を購入する場合は、今後もMSDSを入手し従業員の安全と排油処理管理を継続致します。

V 環境活動の取組み計画とその評価及び次年度の取組

1. 環境活動の取組み計画と活動の評価は下記の通りです。

評価基準-○:取組効果あり△:取組効果少×:取組未達成

No.	取組項目	実績評価	評価	次年度の取組
二酸化炭素排出量の削減	1. 使用電力の削減			
	①不在時、休憩時の消灯	不在時、休憩時の消灯は習慣化し、維持継続できました。	○	現状維持継続
	②手元スイッチ化推進	手元スイッチ化の推進により、必要な場所のみの電力使用で電力を削減できた。	○	随時実施
	③コンプレッサの効率化、エア-漏れ箇所の改善と効率化	コンプレッサ交換、設備移設時を中心に、IP-配管・配置を検討し実施した。しかし製造現場内は漏れ箇所がまだあり今後も継続。	△	随時実施
	2. 灯油、軽油使用量削減			
	①EJDドライブ運転講習	職場管理者、運転手EJDドライブ教育及び、新トラック購入により、二酸化炭素排出の削減に貢献できた。	○	EJDドライブ意識確認継続
②運送トラック、フォークリの定期点検、整備	法規則通りの定期点検、使用前点検の推奨	○	現状維持継続	
廃棄物排出量の削減	1. 一般廃棄物(可燃ゴミ)廃棄量削減			
	①備品の徹底使用	手袋を汚れるまで使用する。軍手、リムのもったいない使い方をしていることがあるので、朝礼にて呼びかけ実施をしました。	△	継続して呼びかけ実施
	②コピー紙の裏紙使用	裏紙使用の呼びかけ実施により、用紙の無駄は削減傾向にあり。	△	現状維持継続
	2. 産業廃棄物の削減			
	①金属くず(不良部品)の削減	製品手直しにより不良品廃却の削減に努めたが、増産も重なり増加となってしまった。	△	不良削減活動継続
	②廃油の削減	生産量増加による設備メンテ、設備移設等で増加した。	×	現状活動継続
水資源投入量削減	1. 生活水の節水			
	①節水を呼びかける看板の設置	節水意識が高まり、水道量が大幅に削減できた。	○	現状活動継続
	②節水関連グッズの使用を試みる	トルタラの節水が案に出たが、水が貯まるのが遅くなる等の懸念があり、実用化に至らず	×	継続して節水方法を検討する
	2. 水溶性切削液の効率			
	③切粉、廃油置場の廃液流出防止改善	現状流出はしていないが、集中豪雨時の流出が危険。工事費用の予算化もあり継続事項とした。	×	継続事項
	④廃液の濾過リサイクル	工程内ブロー加工後の切削液はすべての設備に切削液除去装置(遠心分離装置)を設置し切削液使用量削減を図った。	○	現状活動継続
グリーン購入	購入品は積極的に識別し購入した。今後も意識強化に努める。	○	現状活動継続	
製品及びサービス活動	①工程不良、顧客クレームは減少したが、生産増加に伴い金属類廃棄物は増加してしまった。 ②納入トラック運転手のエコ運転定着を図った。	△	現状活動継続	
化学物質使用料の抑制管理	特定化学物質は使用していないが、今後も油脂類購入時はMSDS入手し・人体への安全性・廃棄時の処理方法等確認し対応をする。	○	現状活動継続、既存MSDSファイルの整理。	

2. 2015年度の取組み評価

1) CO2排出量の削減活動。

自動車部品の増産対応で設備フル稼働であったが消費電力削減に取り組んだ。

特に、コンプレッサは効率の良いものに変更、また、レイアウト変更や新規新設導入時にエア配管を見直した。

2) 産廃物排出量の削減活動。

鉄くずは生産変化に左右されるが、自社として努力すべき工程不良低減活動を実施した結果不良数は減少傾向となった。

今後も「製品及びサービス活動」として不良品削減・エコ運転マナー教育を継続する。

3) 水資源削減活動は、節水活動の意識は徹底されているが、廃液再利用は予算との関連で未実施であった。

今後も継続し検討する。

4) グリーン購入、化学物質使用料の抑制管理の取組は事務局を中心に実施しており成果有と評価する。

なお、活動開始時にファイル化したMSDSを現状に合わせ整理したい。

Ⅵ 環境関連法規制の遵守状況（まとめ）

1 当社に関連する環境関連法規等

〈2016年3月末現在〉

No.	法規制等の名称	管理内容	記録名：報告書	遵守状況
1	浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 定期点検 保守点検を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期点検記録 11条検査記録 	遵法
2	騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> 特定施設(空気圧縮機)の届出。 届出内容の変更、追加の管理。 	特定施設届出書	遵法
3	振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> 特定施設(空気圧縮機)の届出。 届出内容の変更、追加の管理。 	特定施設届出書	遵法
4	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 契約業者の違法行為の有無管理 マニフェスト伝票の保管、報告書の提出 	<ul style="list-style-type: none"> 処理業者との契約書 マニフェスト報告書 	遵法
5	70㍓排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> 適切な機器の管理 	<ul style="list-style-type: none"> 定期点検及び記録の保管 	遵法

2 違反・訴訟等の報告

- 環境関連法規制の違反はありません。
- 過去3年間、関係当局からの違反、訴訟等もありません。また、近隣地域等の方からの苦情・指摘及び訴訟はありません。引き続き、環境関連法規制を順守し、地域環境保全活動に努めます。

Ⅶ 代表者による全体の評価と見直し

- CO2発生量は、生産量増加にも関わらず大幅に削減出来た事は、環境に対する意識・対策の成果と思われる。
- 廃油も設備の移設、増設等が実施されたが前年比微増に抑制できたと思う。
- エア-圧効率化改善は移設、増設時に実施したが、工場全体の漏れ修繕に至らなかった。
- グリーン購入、製品及びサービス、化学物質使用料の抑制管理では特に問題なしと判断する。
- 製品増産傾向にあるが、新トラック導入による軽油使用量の減少を期待したい。
- 更新審査でご指摘いただいた、廃棄物置場の設置・管理を継続。

次年度(2016年度)の取り組みに向けて

①CO2削減、産業廃棄物削減

- 「環境活動計画書」は、CO2削減等を含めた、具体的実施項目を各部署で検討し作成。

②グリーン購入、製品及びサービス、化学物質使用料の抑制管理

- グリーン購入活動は事務商品を中心に来期もエコ商品を優先的に購入していく。
- 工程不良、顧客クレーム改善は継続的に改善する。
- MSDS管理ファイルの整理

③環境上の非常事態への想定訓練の実施。

等々を中心に活動計画書を作成し全員で推進していくこと。